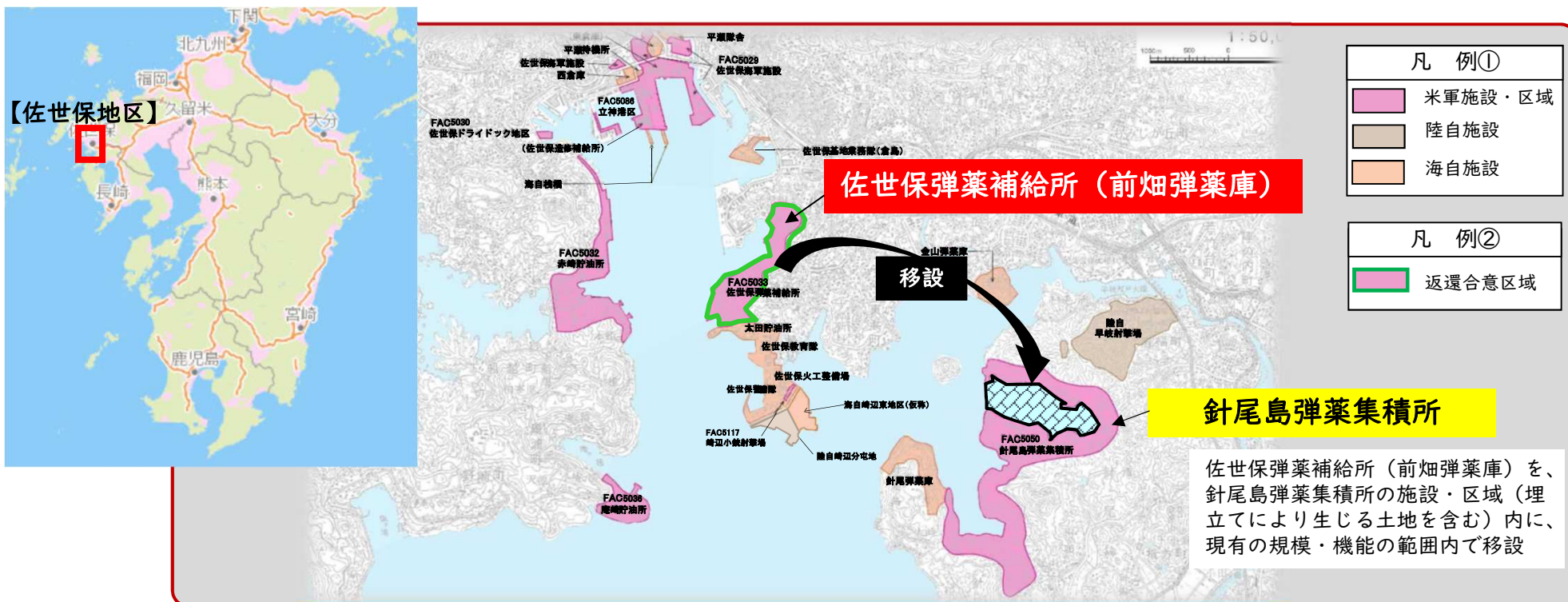
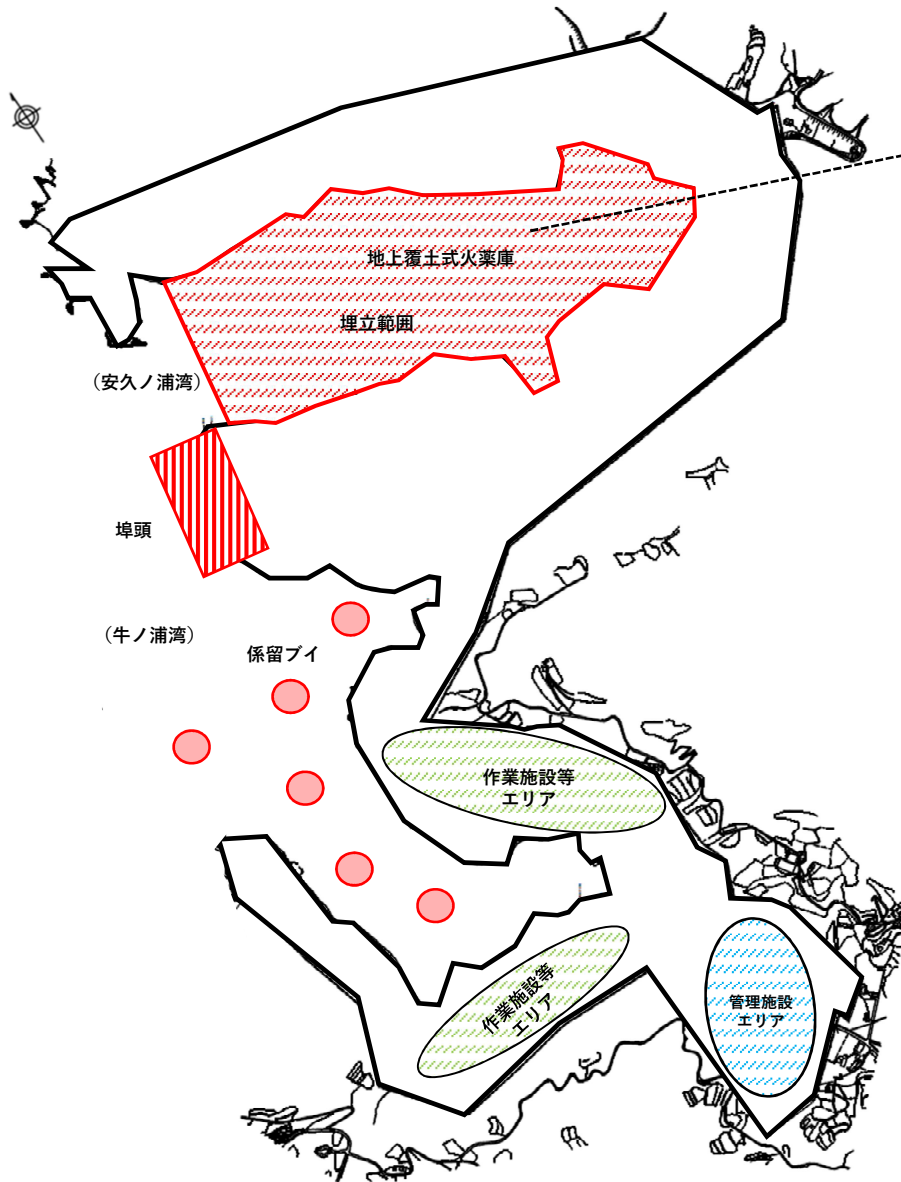


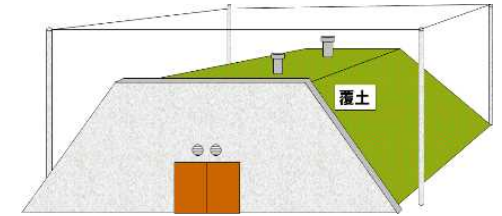
佐世保弾薬補給所（前畑弾薬庫）の移設・返還

- 長崎県佐世保地区では、狭あいな場所に、在日米軍の施設、自衛隊の施設、民間企業の施設が混在。防衛省は、地元佐世保市などの要望も踏まえ、防衛施設と民間施設のすみ分けを推進。
- 平成23年（2011年）1月、佐世保弾薬補給所（前畑弾薬庫）の針尾島弾薬集積所への移設と返還について、日米合同委員会で合意。一方で、移設先の施設の配置案については、その後の日米間の調整に委ねられていた。
- 令和7年（2025年）8月、移設先の施設の配置案について日米間で合意。今後、できる限り早期に佐世保弾薬補給所（前畑弾薬庫）の返還が実現するよう、環境影響評価や基本設計などの取組を推進。





【地上覆土式火薬庫のイメージ】



1. 安久ノ浦（あくのうら）湾を埋め立て、地上覆土式火薬庫を整備
2. 佐世保弾薬補給所（前畑弾薬庫）や佐世保港（立神岸壁）の埠頭で行われている弾薬の積み下ろし・積み込み機能を移設するため、安久ノ浦（あくのうら）・牛ノ浦（うしのうら）間に埠頭を設置。これにより、主として埠頭に直接接岸する方法で弾薬を海上輸送することが可能となり、安全性と運用性がさらに向上
3. 波浪、高潮や津波への対策として必要な措置を講じる
4. 牛ノ浦湾に、船舶の係留に用いるブイ6基を設置
5. 施設の整備に当たっては、日米双方の基準を満たすこととする

- 配置案について日米間で合意した後、令和7年度においては、移設先の施設の整備に必要な浚渫範囲等について検討を推進。
- 令和8年度以降、環境影響評価手続と調査・設計を並行して推進。

令和7年8月

移設先の施設の配置案を日米間で合意

令和8年4月以降

検討・調査

移設先の施設の整備に必要な浚渫範囲等について検討。

調査・設計

【調査】
現地における測量・土質調査など
【設計】
基本設計を進めるとともに、今後実施設計を実施する予定。

環境影響評価手続

配慮書、方法書、準備書、評価書の公告・縦覧

公有水面埋立申請手続

工事

- 埠頭の整備、安久ノ浦（あくのうら）湾の埋立て、火薬庫の整備等を予定
- 工事の規模・施工計画等については、調査・設計の結果を踏まえて決定

約5年

約1年

概ね十数年程度の工期を想定

※ 上記のほか、令和6年度から火薬庫の安全性確認のための実証実験を実施中

※ 上記のほか、米側は、施設配置案の米本国承認手続を実施

※ 現段階での工程案であり、今後変更があり得る